

移動と接触の観光社会学

Tourism Sociology on Mobility and Contact



遠藤 理一
ENDO Riichi

講師
Lecturer

専門領域 Areas of expertise

- 社会学
Sociology
- 観光学
Tourism Studies

主な担当科目 Subjects

- 観光社会学
- 観光史
- 観光とメディア文化
- Tourism History



研究活動 Research

観光に関する理論と事例から、国境を越えて形成される社会・歴史について探っています。とくに観光を資本主義、帝国主義、植民地主義、戦争の歴史と結びつけて捉えるとともに、観光がそうした状況に対して/の中で何を生み出すのかを考えています。

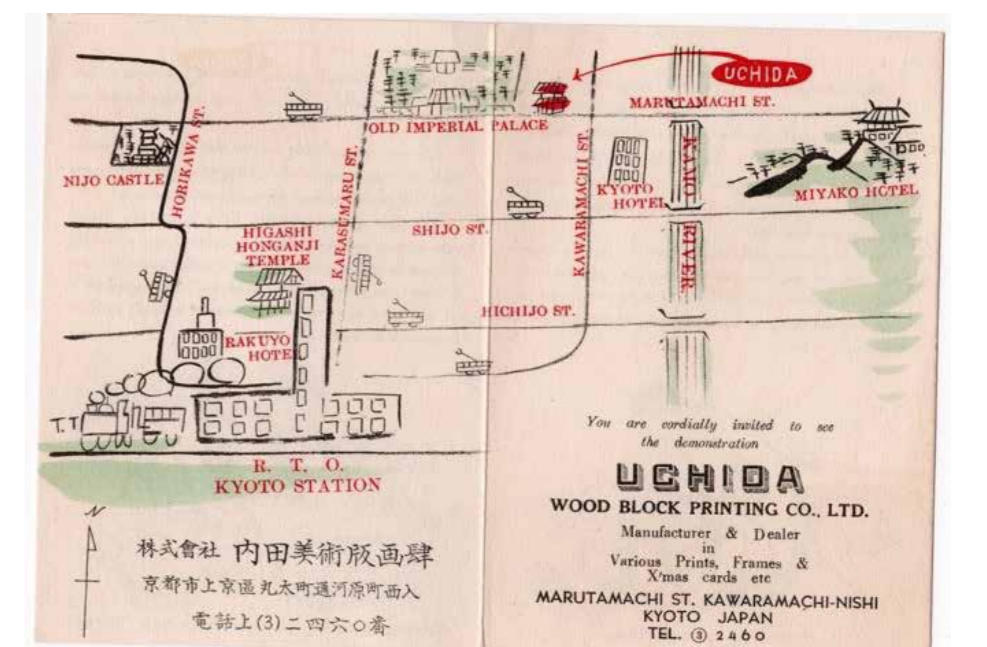
① 占領期日本(1945-52)における観光

観光の社会的意味の再検討のため、これまで研究が十分になされてこなかった、占領期の日本における観光政策・行政・事業および観光旅行について研究してきました。

この時期は戦争末期の休止期間を経て観光政策・行政・事業が再開されはじめた時期であり、国際観光事業や観光まちづくりがデモンストレーションされ、その意義が主張された時代でした。また多くの連合軍関係者や国際観光客が、ときに米軍や旅行会社のツアーを利用しながら、日本を旅した時代でもありました。こうした例を調査しながら、観光と占領・復興・冷戦の関係性について、また観光の社会的な役割について探っています。



GHQ経済科学局による日本の観光振興に関するレポート。1950年。著者所蔵資料。



京都の版画工房が連合軍関係者に配布したショップカード。1950年代。筆者所蔵資料。

② 観光の社会的役割・意味についての理論的・歴史的研究

観光がどのような移動・接触を生むものであり、それらが社会においてどのような役割・意味をもっているのかについて、観光についての人文社会学的な議論の読み直しから、検討を進めています。

また上記の問題意識について、歴史的事例の調査をもとに探っています。例えば占領期における連合軍関係者の日本人の人々への共感や、共感できなかった経験について。また、戦後の日本人男性の性的旅行の文化に関して、中でも1970年代における彼らの韓国への旅行に焦点を当てて研究しています。

ゼミ活動 Education

観光・文化・社会について、社会学的な理解を深め、表現できるようになることを目指します。ゼミは課題図書や論文の輪読や読書感想文の紹介を行いつつ、フィールドワーク、学会ポスター発表、その他イベントごとなどを行います。ゼミや関連する講義で学んだことの実践、ゼミ生の間での対話、自身の価値観や行動原理の問い直しを重視しています。



観光学術学会での学部学生ポスター発表。2024年7月



紀の国ぶらくり劇場での大衆演劇の観劇。2025年7月



ゼミの課外活動(サブゼミ)として同人誌を制作し、インテックス大阪で開催された文学フリマでの販売を行った。2026年4月~9月

卒業論文/修士論文テーマ Thesis

- 神社観光における聖と俗の共存——明治期から現代の青島神社の変遷より (修士論文)
- 馬と編む観光というひととき——馬を用いた観光における関係性と経験の形成 (修士論文)
- テーマ化された商業空間における「懐かしさ」の生成——運営・店舗・来訪者からみるKITTE 大阪 (卒業論文)
- 観光によって媒介されるポリティクス——戦間期ハンガリーにおける観光の政治性 (卒業論文)
- 直島における観光経験の「余白」——アート空間が生み出す時間と身体のリズム (卒業論文)